

寄贈図書リスト

系外惑星探査 地球外生命をめざして, 河原創著,
A5判, 288頁, 4,200円+税, 東京大学出版会

「宇宙のすべてを支配する数式」をパパに習ってみた
天才物理学者・浪速阪教授の70分講義, 橋本幸
士著, 四六判, 176頁, 1,500円+税, 講談社

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申込みください。

原稿はe-mailで toukou@geppou.asj.or.jp宛に, テキストデータとして扱える形式でお送りください。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

東京大学大学院理学系研究科 附属天文学教育研究センター教員

1. 助教1名
2. (1) 大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター
(2) 東京都三鷹市大沢2-21-1
3. 観測天文学
4. 当センターは銀河天文学, 電波天文学, 恒星物理学の3部門および木曾観測所で構成され, 南米チリ・アタカマでTAOおよびASTEのプロジェクトを展開しています。これらの研究部門・プロジェクトと連携をとりつつ, TAO望遠鏡の建設と運用および科学的成果の創出に貢献し, 観測天文学を進められる方を求めます。また天文学専攻の専任教員として大学院および学部教育も担当していただきます。
5. (1) 2018年9月1日以降のなるべく早い時期
(2) なし (定年65歳)
6. 大学院博士課程修了, またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書 (写真貼付)
(2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要)
(3) 研究論文リスト

(4) 主要論文別刷 (3編以内)

(5) 着任後の研究計画と抱負

(6) 本人について意見を述べられる方3名の氏名と連絡先 (e-mailアドレス)

8. 2018年6月29日 (金) 必着

9. 〒181-0015東京都三鷹市大沢2-21-1

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

センター長 土居守

Tel: 0422-34-5021

Fax: 0422-34-5041

e-mail: doi@ioa.s.u-tokyo.ac.jp

10. 封筒の表に「人事応募書類」と朱書き, 直接持参するか, 簡易書留で郵送してください。

11. 本研究科では, 男女共同参画を積極的に推進しています。詳しくは下記の理学系研究科男女共同参画基本計画をご覧ください。

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/kihonkeikaku.html>

国立天文台研究教育職員

(チリ観測所特任准教授または特任助教)

1. 年俸制職員 (特任准教授または特任助教) 1名

2. (1) 国立天文台チリ観測所

(2) 東京都三鷹市

3, 4.

○ ALMAの共同利用運用のためのユーザー支援業務 (観測準備支援, 観測手順書作成支援, データ解析および品質保証, パイプラインデータ解析, ヘルプデスク業務) の実施

○ 国内外におけるALMAのサイエンスプロモーション活動 (研究会, ユーザーズミーティング等) の実施

- 出張ベース（1カ月程度の出張を年1回）で、チリ現地における当番天文学者業務（Astronomer on Duty）もしくはシステム・科学評価活動の実施
- ASTE望遠鏡の観測支援
特任准教授には、以上に加えて上記のALMAの共同利用運用のためのユーザー支援業務の少なくとも一つに責任をもっていただきます。
また、上記の業務を75%の-effortで行っていただき、残りの25%はALMAに関する研究、例えば
 - ALMAを用いた卓越した研究
 - ALMAにおける新しい研究分野の開拓にあてていただきます。
- 5. 2018年10月1日-2023年9月30日
※年度毎に業績評価を行い給与の見直しを行います。
※平成25年4月1日以降に自然科学研究機構に雇用歴がある場合、平成25年4月1日以降の通算雇用期間の上限が10年までの契約となります。
- 6. 上記業務に必要な、以下の知識と経験を有すること。
 - 大学博士課程修了、またはそれと同等以上であること。
 - 天文学の知識を有すること。
 - 電波観測装置を用いた観測的研究の推進に意欲的に取り組めること。
 - 外国人との共同作業ができる程度の英語力を有すること。
 - 東アジアのARCおよび他のARCスタッフと協力・協調して、科学評価活動およびユーザー支援業務に意欲的に取り組めること。
- 7. 提出書類：以下の書類（英文）をpdfファイルとし、電子メールに添付して送付してください。
 - (1) カバーレター
 - (2) 履歴書（研究歴も含める：個人としての研究業績の他に、多人数で行った研究・開発プロジェクトの場合は本人の果たした業績を具体的に記入してください）
 - (3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の場合は本人の役割分担を記すこと）
 - (4) 主要論文3編のpdfコピー
 - (5) 職務に対する抱負と計画
 - (6) できるだけ迅速に連絡がとれる連絡先（e-mailアドレス、電話番号）
 - (7) reference letter 2通以上（応募者からの書類に含めず、letterを依頼した方から直接9.(1)の提出先に応募締切までに届くよう依頼してください）
- 8. 2018年7月2日（月）17時（日本時間）必着
- 9. (1) Prof. Seiichi Sakamoto, Director of NAOJ Chile Observatory
apply-alm-a-rc20180702@nao.ac.jp
件名欄に「Application for EA-ARC Support Astronomer」と記入してください。
- (2)（応募に関する問合せ先）国立天文台事務部 総務課人事係
Tel: 0422-34-3750
e-mail: apply-qa@nao.ac.jp
（職務内容に関する問合せ先）国立天文台チリ観測所長 阪本成一
e-mail: sakamoto.seiichi@nao.ac.jp
- 10.
 - ・ PDFファイル作成にあたっては解像度に注意し、あまり容量が大きくなりすぎないようにしてください。（メール1通につき最大10MBまで）
 - ・ 応募書類が受理されると祝日を除き3日以内に受理確認のメールをお送りします。それが届かない場合は、上記お問い合わせ先までご連絡ください。
 - ・ 応募書類はこの選考以外のいかなる目的にも使用しません。選考後、採用者以外の応募書類は責任をもって破棄します。
 - ・ 面接に要する費用（交通費等）は応募者の自己負担となります。
- 11.
 - ・ 勤務形態：裁量労働制
始業8:30-終業17:15（休憩1時間）を基本とし、労働者の決定に委ねる
（土、日、祝日、年末年始（12月29日-翌年1月3日）は休日）
 - ・ 待遇：給与は年俸制
おおむね国立大学准教授相当（特任准教授の場合）または国立大学助教相当（特任助教の場合）
職務内容、実績、経験等により決定した年俸額の12分の1の額を毎月支給
文部科学省共済組合（健康保険）、厚生年金保険、雇用保険、労災保険に加入
有給休暇（夏季休暇、年次休暇、忌引等）あり
 - ・ 選考方法：書類選考および面接による選考
 - ・ 国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めており、業績の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。詳しくは、<http://open-info.nao.ac.jp/danjokiyodo/> をご覧ください。

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 助教

1. 助教1名
2. (1) 宇宙科学研究所・宇宙物理学研究系
(2) 相模原キャンパス（相模原市）
3. 宇宙物理学
4. 2020年代の宇宙科学をリードするミッションの一つとして、宇宙科学研究所は赤外線天文衛星SPICA計画を、欧州宇宙機関ESAおよび国内外の研究者・機関と協力して推進しています。本公募では、2020年代後半に向けての天文学・宇宙物理学の長期的展望のもとにSPICA計画を推進する強い意欲と能力をもった清新な人材を広く求めます。SPICA計画は、8Kの極低温に冷却されたスペース大口径宇宙望遠鏡を実現することにより、宇宙の歴史の中で重元素や「星間ダスト（固体微粒子）」さらには「有機物質」がどのように作られたのか、銀河の形成・進化やさまざまな惑星の誕生にこれらがどのような役割を果たしたのか、という現代の天文学の中心的課題に挑む計画です。SPICA計画の詳細についてはJAXA宇宙科学研究所SPICAホームページ（http://www.ir.isas.jaxa.jp/SPICA/SPICA_HP/index.html）を参照ください。SPICA衛星の観測ミッションモジュール（Payload Module）全体をシステムとしてまとめあげるには、JAXA宇宙科学研究所の責任となっています。また、SPICAの主要な科学観測機器の一つである中間赤外線観測装置（SPICA Mid-Infrared Instrument; SMI）は、宇宙科学研究所と大学を中心とするSMIコンソーシアムの密接な協力により、その開発が進められます。本公募では、SPICAによる科学成果の創出に向けた研究・開発を行う宇宙物理学研究者を求めます。特に中心となる職務としては、
 - (1) 中間赤外線観測装置SMIの開発・製作の推進、または、
 - (2) 観測ミッションモジュール（PLM）開発・製作の推進、
 に従事していただくことを予定しています。これまでの研究分野によらず、2020年代後半における天文学への展望をもちつつSPICA計画を推進する能力と意欲をもった方の応募を期待します。また、JAXA教育職として、JAXAが果たすべき大学共同利用の役割を理解し、大学等の研究者と

協調して研究を遂行するとともに、JAXA内の各種活動に積極的に参加し、専門研究能力を活かして研究開発やプロジェクトに貢献すること、また、大学院学生の教育・指導に携わることが求められます。

このような業務に鑑み、今回募集する助教は、少なくとも次の要件を満たすものとします。

- (1) 天文学・宇宙物理学研究において優れた実績を有し、2020年代後半につながる長期的な研究ビジョンを有すること。
- (2) 極低温環境下の観測装置、もしくは、スペースまたは地上における天体観測装置について、開発研究の経験、ないしはそのための資質を有すること。
- (3) 大学院学生の教育・指導を補佐する能力を有すること。
5. (1) 決定後できるだけ早い時期。
(2) 任期なし。63歳定年制。
6. 博士号を有すること
7. (1) 履歴書
(2) 研究歴
(3) 論文リスト
(4) これまでの研究概要と今後の研究計画（プロジェクトへの貢献と教育活動についての抱負を含む）
(5) 外部研究資金獲得実績（外部資金の種類、金額、研究代表/分担を明記すること）
(6) 他薦の場合は推薦書を提出することのできる方2名、自薦の場合は本人について意見を述べることのできる方2名の氏名と所属、連絡先（電話番号、電子メールアドレス）
(7) 主要論文の別刷り3編以内（査読付き学術誌に掲載されたものに限る）
8. 下記Webサイトから電子的方法により提出してください。
<https://isas-appli-form.jaxa.jp/forms1/1522379110>
提出にあたっては、上記webサイト上の指示に従ってください。
9. 2018年7月2日（月）9時30分（日本時間）必着
10. 問合せ先
宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所
宇宙物理学研究系主幹 山田亨
Tel: 050-3362-2463
e-mail: yamada.toru@jaxa.jp
11. 卓越研究員制度：本公募の選考は文部科学省卓越研究員制度の選考と両立するように勧めます。このため、応募者が平成31年4月1日現在40歳未

満である場合は、並行して公募される下記HPアドレスに掲載した文部科学省卓越研究員制度にも応募することを希望します。

https://www.jsps.go.jp/j-le/koubo_kenkyu.html
先にtennetではご案内しましたが、卓越研究員事業に研究者が申請する期限は、4月26日（木）で終了しました。

その他：選考は宇宙科学研究所宇宙科学運営協議会にて行います。また、選考に伴い発生する交通費・宿泊費については自己負担になります。宇宙科学研究所は、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

国立天文台チリ観測所特任助教

1. 2017年11月号（第110巻第11号）
2. 宮本祐介（国立天文台・プロジェクト研究員）
3. 2018年4月1日

賞の推薦

第35回（2018年度）井上学術賞推薦要項

1. 概要：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた研究者で、2018年9月20日現在の年齢が50歳未満の者に対し、井上学術賞（賞状および金メダル、副賞200万円）を贈呈します。
2. 募集方法：指定の関係38学会、および井上科学振興財団の選考委員経験者、受賞後5年を経過した井上学術賞受賞者等からの推薦。
3. 日本天文学会からの推薦件数：2件以内
4. 推薦締切日：2018年8月31日（金）
日本天文学会 jimucho@asj.or.jp宛に必着。
5. <http://www.inoue-zaidan.or.jp> からダウンロードした推薦書に必要事項を記入のうえ、メールの添付ファイルとして、jimucho@asj.or.jp宛てお送りください。メールの件名は、「第35回井上学術賞応募 氏名」としてください。
なお、井上学術賞、募集要項、推薦書等の詳細は、上記のURLを参照くださるようお願いいたします。

第35回（2018年度）井上研究奨励賞推薦要項

井上研究奨励賞（Inoue Research Award for Young Scientists）の贈呈。

理学、医学、薬学、工学、農学等の分野で過去3年の間に博士の学位を取得した37歳未満の研究者で、優れた博士論文を提出した若手研究者に対し井上研究奨励賞（賞状・メダルおよび副賞50万円）を贈呈します。

*2018年9月20日井上科学振興財団必着

第11回（2019年度）井上リサーチアワード募集要項

井上リサーチアワード（Inoue Science Research Award）の贈呈。

自然科学の基礎的研究で優れた業績を上げ、さらに開拓的発展を目指す若手研究者の独創性と自立を支援することを目的とします。

自然科学の基礎的研究で博士の学位取得後9年未満のわが国の国公私立大学および大学共同利用機関に所属（予定を含む）する研究者で、これまでの成果を踏まえ、単独または共同研究者の協力を得て行う将来性豊かな研究者に対し井上リサーチアワード（賞状および研究助成金一人当たり500万円）を贈呈します。

*2018年7月31日井上科学振興財団必着

井上研究奨励賞・井上リサーチアワード推薦についての詳細は下記URLをご参照ください。

<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

2018年度の島津賞・島津賞奨励賞の推薦募集

1. 島津賞候補者の推薦

わが国の科学技術振興のため、科学技術、主として科学計測にかかわる領域で、基礎的研究および応用・実用化研究において、著しい成果を上げた功労者を表彰します。日本天文学会を含む島津賞・島津奨励賞推薦依頼学会から推薦のあった候補者を、選考委員会が選考し、島津科学技術振興財団理事会の審議を経て決定します。毎年度1件、賞状、賞牌、副賞500万円を贈呈します。

2. 島津奨励賞（2018年度から新設）候補者の推薦

わが国の科学技術振興のため、科学技術、主として科学計測にかかわる領域で、基礎的研究および応用・実用化研究において独創的成果を上げ、かつその研究の発展が期待される45歳以下（4月1日時点）の若手研究者を表彰します。日本天文学会含む島津賞・島津奨励賞推薦依頼学会および当財団関係者から推薦のあつ

候補者を、選考委員会が選考し、島津科学技術振興財団理事会の審議を経て決定します。毎年度、3件以下、賞状、賞牌、副賞100万円を贈呈します。

■応募方法

必要書類一式を財団ホームページよりダウンロードして提出ください。

島津科学技術振興財団ホームページ：<https://www.shimadzu.co.jp/ssf>

■募集期間

2018年4月1日（日）-7月31日（火）（消印有効）

※島津賞、島津奨励賞の候補者については、日本天文学会から推薦をすることになりますので、必要書類については、7月20日（金）必着で、事務長宛に送付くださるようお願いいたします。

■選考審査

島津科学技術振興財団に設置する選考委員会が選考し、理事会の審議を経て決定します。選考結果公表
2018年12月上旬の予定

■島津科学技術振興財団 問い合わせ先

〒604-8445 京都市中京区西ノ京徳大寺町1番地
公益財団法人島津科学技術振興財団
事務局 Tel: (075) 823-3240 Fax: (075) 823-3241
URL: <https://www.shimadzu.co.jp/SSF>
e-mail: ssf@zaidan.shimadzu.co.jp

研究助成

2018年度島津科学技術振興財団 研究開発助成の募集

科学技術、主として科学計測にかかわる領域で、基礎的研究を対象とし、原則として、国内の研究機関に所属する45歳以下の新進気鋭の研究者（国籍不問）に助成します。

助成の金額：総額2300万円（23件以下）。

■応募方法

必要書類一式を当財団ホームページよりダウンロードして提出ください。

島津科学技術振興財団ホームページ：<https://www.shimadzu.co.jp/ssf>

■募集期間

2018年4月1日（日）-7月31日（火）（消印有効）

財団事務局宛

■選考審査

島津科学技術振興財団に設置する選考委員会が選考し、理事会の審議を経て決定します。選考結果公表

2018年12月上旬の予定

■島津科学技術振興財団 問い合わせ先

〒604-8445 京都市中京区西ノ京徳大寺町1番地
公益財団法人島津科学技術振興財団
事務局 Tel: (075) 823-3240 Fax: (075) 823-3241
URL: <https://www.shimadzu.co.jp/SSF>
e-mail: ssf@zaidan.shimadzu.co.jp

公益財団法人住友財団 2018年度2件の研究助成

基礎科学研究助成

助成の趣旨：科学の進歩は社会の発展に大きな貢献を果たしてきました。科学は人類社会の未来を拓くことにつながるものです。

この助成は、重要でありながら研究資金が不十分とされている基礎科学研究、とりわけ新しい発想が期待される若手研究者による萌芽的な研究に対する支援を行うものです。

助成対象研究：理学（数学、物理学、化学、生物学）の各分野およびこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む。）

応募資格：「若手研究者」（個人または研究グループ）

①国籍に関係なく、日本の大学等の研究機関に所属し、申請に関する所属機関長の承諾がとれるのであれば応募可能です。

②上記①以外であっても、日本国籍を持つ者または日本に永住を許可されている外国人は、応募可能です。なお、海外の大学等の研究機関に所属している者は所属機関長の承諾を得ることが必要です。

なお、研究者の所属が営利企業（兼務を含む）の場合には応募不可です。

助成金：総額1億5,000万円（1件当たり最大500万円）

助成件数：90件程度

環境研究助成

助成の趣旨：現在、人類が直面している大きな問題の一つに環境問題があります。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、生物種の減少、食料と人口、砂漠化、公害等さまざまな問題があり、その原因の探究と解決策の模索が続けられています。この助成は、環境問題の解決のためには、多面的アプローチによる分析とさまざまな対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点（人文科学・社会科学・自然科学）からの研究に対する支援を行うものです。

助成対象研究：

- ・一般研究 環境に関する研究（分野は問いません。）

・課題研究 2018年度募集課題「地域固有の環境問題の理解および解決のための学際研究または国際共同研究」

応募資格: 研究者個人または研究グループ

①国籍に関係なく、日本の大学等の研究機関に所属し、申請に関する所属機関長の承諾がとれるのであれば応募可能です。

②上記①以外であっても、日本国籍を持つ者または日本に永住を許可されている外国人は、応募可能です。なお、海外の大学等の研究機関に所属している者は所属機関長の承諾を得ることが必要です。

なお、研究者の所属が営利企業（兼務を含む）の場合には応募不可です。

助成金: 総額1億円

一般研究7,500万円1件当たり最大 500万円

課題研究2,500万円1件当たり最大1,000万円

助成件数: 一般研究 50件程度

課題研究 3件程度

共通事項

募集期間: 2018年4月15日(日)-6月30日(土)

※e-mailの締切は6月7日(木)となっております。ご注意ください。

応募方法: 財団ホームページから申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、e-mailと郵送の両方で送ってください。

連絡先: 〒105-0012 東京都港区芝大門1-12-16 住友芝大門ビル2号館

公益財団法人 住友財団

Tel: 03-5473-0161 Fax: 03-5473-8471

e-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

研究会・集会案内

第27回 公開セミナー「天文学の最前線～国際化する天文学研究～」の参加者募集

名古屋大学と名古屋市科学館では毎年夏休みの時期に、名古屋大学の研究者を中心とした第一線で活躍する天文学研究者を集め、一般向けのわかりやすい講演会を開催しております。27回目の今年のテーマは「国際化する天文学研究」です。ホットトピックである重力波の話題から宇宙論、銀河や星の形成に至るまで国際的に活躍する8名の天文学者たちの講演をお楽しみいただけます。

日 時: 平成30年8月3日(金)から4日(土)

会 場: 3日名古屋大学 坂田・平田ホール(理学南館)
4日名古屋市科学館 サイエンスホール、プラネタリウムドーム(プラザアース)

主 催: 名古屋大学大学院理学研究科、宇宙地球環境研究所、名古屋市科学館

内 容: 講演会、座談会(両日)、研究室紹介(3日)、プラネタリウム特別番組上映(4日)

対 象: 高校生以上

定 員: 300名(応募多数の場合は学生・教員を優先に抽選)

参加費: 500円(高校生・大学生・大学院生)、1,000円(教員・一般)申込状況に応じて若干変更する可能性があります。

問合せ先: 名古屋大学大学院理学研究科 Ta 研
井上剛志

e-mail: nagoya.koukai.seminar@gmail.com

申込方法: 下記のURLからインターネットでお申込みください(団体申込みもできます)。

<http://www.astro-th.phys.nagoya-u.ac.jp/open27/application.html>

(申込時の情報は、主催者開催のセミナー等の案内以外には使用しません)

締 切: 平成30年7月6日(金)

会 務 案 内

日本天文学会 2018年春季年会報告

2018年春季年会は、3月14日(水)から17日(土)の4日間、千葉大学西千葉キャンパス(千葉県千葉市)にて口頭講演10会場、ポスター講演1会場を使って開催された。講演件数は口頭講演が459件、ポスター講演が173件で、合計632件の講演があった。年会参加者は一般584名、学生337名の計921名であった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え企画セッション2件、天文教育フォーラムを含む特別セッション3件も開催された。展示コーナーは3件の賛助会員による展示と1件の正会員による展示があった。開催地理事の花輪知幸氏や開催地実行委員の石山智明氏、堀田英之氏、松本洋介氏、松元亮治氏、宮路茂樹氏ほか皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次の57名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する。(敬称略)

	3月14日(水)	3月15日(木)		3月16日(金)		3月17日(土)
	13:00-15:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30
A会場	太陽系 竹田洋一 (国立天文台)	コンパクト天体 杉田聡司 (東京工業大学)	コンパクト天体 井岡邦仁 (京都大学)	コンパクト天体 寺澤敏夫 (理化学研究所)	コンパクト天体 中島基樹 (日本大学)	コンパクト天体 田邊健茲 (岡山理科大学)
B会場	すばる PFS 長尾透 (愛媛大学)	すばる PFS 高田昌広 (東京大学)	すばる PFS 田村直之 (東京大学)	マゼラン雲 西合一矢 (国立天文台)	マゼラン雲 大西利和 (大阪府立大学)	
C会場	宇宙論 樽家篤史 (京都大学)	宇宙論 高橋龍一 (弘前大学)	星間現象 高橋弘充 (広島大学)	星間現象 立原研悟 (名古屋大学)	星間現象 山内茂雄 (奈良女子大学)	星間現象 下西隆 (東北大学)
D会場	恒星 青木和光 (国立天文台)	恒星 新永浩子 (鹿児島大学)	星・惑星 堀安範 (アストロバイオ ロジーセンター)	星・惑星 藤井友香 (東京工業大学)	超新星爆発 政田洋平 (愛知教育大学)	超新星爆発 山中雅之 (広島大学)
E会場	星・惑星 小林浩 (名古屋大学)	星・惑星 武藤恭之 (工学院大学)	星・惑星 小林かおり (富山大学)	星・惑星 大屋瑤子 (東京大学)	星・惑星 立松健一 (国立天文台)	星・惑星 高橋実道 (工学院大学)
F会場	銀河団 大橋隆哉 (首都大学東京)	銀河団 中澤知洋 (名古屋大学)	観測機器 信川正順 (奈良教育大学)	観測機器 玉川徹 (理化学研究所)	観測機器 鶴剛 (京都大学)	観測機器 杉崎睦 (理化学研究所)
G会場	教育・他 山村一誠 (JAXA)	教育・他 / 観測機器 川邊良平 (国立天文台)	観測機器 河野裕介 (国立天文台)	観測機器 田村陽一 (名古屋大学)	観測機器 小嶋崇文 (国立天文台)	観測機器 松尾宏 (国立天文台)
H会場	銀河 小宮山裕 (国立天文台)	銀河 國生拓摩 (名古屋大学)	観測機器 美濃和陽典 (国立天文台)	観測機器 鈴木竜二 (国立天文台)	観測機器 本原顕太郎 (東京大学)	観測機器 沖田博文 (国立天文台)
I会場	活動銀河核 野田博文 (東北大学)	活動銀河核 三澤透 (信州大学)	活動銀河核 / 太陽 坪井昌人 (JAXA)	太陽 岡本文典 (国立天文台)	太陽 渡邊恭子 (防衛大学校)	太陽 今田晋亮 (名古屋大学)
J会場		銀河形成 森正夫 (筑波大学)	銀河形成 泉拓磨 (国立天文台)	銀河形成 川口俊宏 (尾道市立大学)	銀河形成 河野孝太郎 (東京大学)	

〈記者会見〉

日本天文学会2018年秋季年会記者会見は、年会前日の3月13日(火) 14:00から千葉県庁県政記者クラブ会議室にて行われた。柴田会長が挨拶および日本天文学会の組織と活動の概要、今回の千葉大学における春季年会概要、3月18日に千葉市科学館で開催される公開講演会の紹介を行った。続いて年会研究講演から3件について発表を行った。当日は報道機関6社の参加があった。事前および事後に研究者や日本天文学会事務所にコンタクトが続いている。なお1件については、発表者の所属先の大学でも記者会見を行い、1社の参加があった。他のメディアも含め印刷版、オンライン版合わせて4月4日現在で13件(項目としては

14)の掲載を確認している。

今回の記者会見で発表を行ったもの:

発表1

「中性子星合体をとらえた! マルチメッセンジャー天文学の大きな飛躍」

吉田道利 (J-GEM および 国立天文台)

内海洋輔 (J-GEM および スタンフォード大学)

田中雅臣 (J-GEM および 国立天文台)

関連講演 特別セッション

「連星中性子星合体 GW170817」

W101a, W102a, W103a, W104a, W105a, W108c,

W109b, W113a, W114a, W115a, W116a, W214a

発表2

「巨大星の最期・超新星爆発直前にとらえた強力な磁場
～雲隠れに垣間見る、大爆発寸前の巨大老齢星最期の
姿の新事実～」

新永浩子（鹿児島大学）

関連講演 N03a

発表3

「日本天文学会，天文用語集を広くインターネット公開」
縣 秀彦（国立天文台）

岡村定矩（法政大学）

関連講演 Y01a

（林左絵子）

〈特別セッション〉

【安全保障と天文学】

世話人：柴田一成，須藤靖，梶田隆章，
山崎典子，野津湧太，林左絵子，
土居守，山下卓也，伊王野大介

年会初日の3月14日（水）15:15から17:15まで年会J会場にて特別セッション「安全保障と天文学」が開催された。本特別セッションは、「安全保障と天文学」の問題について日本天文学会としてどのように関わるかを会員の皆様に自由に議論していただくことを目的として、日本学術会議との共催で行われた。参加者は約250名であった。

初めに、日本天文学会会長の柴田一成氏よりセッションの趣旨説明があった。次に、日本学術会議連携会員（前会員）の須藤靖氏により学術研究と安全保障を巡る議論の背景が説明された。コミュニティーの意見として、日本学術会議連携会員、元第3部（理学・工学）部長の海部宣男氏、京都大学宇宙総合学研究所ユニット特任教授の中野不二男氏、また天文・天体物理若手の会を代表して京都大学物理学・宇宙物理学専攻大学院生D1の善光哲哉氏による講演があった。その後に行われた参加者による自由討論では、幅広い年齢層の参加者からさまざまな観点の意見が出された。最後に日本学術会議会員の山崎典子氏による挨拶でセッションは幕を閉じた。

【連星中性子星合体GW170817】

世話人：吉田道利，中村卓史，河合誠之，
田中雅臣，神田展行

2017年8月に人類初となる中性子星連星合体から重力波GW170817が検出され、その後、ガンマ線から電波に至る幅広い波長域において、対応する電磁波放射が検出・追跡された。このイベントを振り返り、

その天文学的意義を考えるために本特別セッションを開催した。セッションは2018年3月16日（金）15:45-17:45にJ会場で行われた。

最初に吉田から、本年会における関連講演の紹介とGW170817についての概要説明、および本特別セッションの目的説明があった。続いて、大阪市立大学の神田展行氏から、「重力波観測でわかる連星合体の姿」と題した講演があった。神田氏の講演は、重力波観測だけからコンパクト連星合体のどのような物理パラメータを得ることができるのか、そのための必要条件は何かなどの詳しい話があった。重力波信号を捉えることができなかったVirgoが果たした役割の重要性などの興味深い話や、今後のKagraへの期待などが語られた。

三番目の講演者は、現在スタンフォード大学でLSST計画に参加している内海洋輔氏で、「電磁波観測による重力波対応現象の追跡」と題された講演がなされた。内海氏は、GW170817の光赤外追跡観測を、すばる望遠鏡等を用いて行った当事者である。講演では、重力波検出から追跡観測に至る実際の観測現場の臨場感溢れる様子などの話とともに、近赤外線データはrプロセス元素の崩壊熱モデル（マクロノバ/キロノバ）で説明できるが、初期の可視光データは標準的なモデルで説明できないといった話があった。また、光赤外線に限らず、日本のX線・ガンマ線観測装置による追跡観測の試みなども紹介された。

最後に、京都大学基礎物理学研究所の井岡邦仁氏より、「コンパクト連星合体からの電磁波現象の理論」と題する講演があった。井岡氏はGW170817を例に取り、中性子星合体、ブラックホール・中性子星合体などから予想される電磁波放射のさまざまな理論と、その得失を紹介された。特に、視線方向から傾いた相対論的ジェットおよびそのコクーンが、幅広い電磁波放射を説明できる可能性があることが強調された。

収容人数300名の会場の7～8割が埋まる盛況であり、このイベントに対する関心の深さが伺えた。今後のマルチメッセンジャー天文学の発展を予感させる会であった。

〈企画セッション〉

【すばる超広視野多天体分光器PFSは何を明らかにするのか？】

世話人：千葉柁司，岩田生，村山斉，
長尾透，高田昌広，田中賢幸，田村直之
すばる望遠鏡の次世代観測装置として、主焦点多天体分光器Prime Focus Spectrograph（PFS）の開発が進んでいる。本セッションでは、PFSプロジェクトの

現状、今後のタイムラインの情報を共有し、PFSで可能になる銀河考古学、銀河進化、宇宙論にわたるさまざまなサイエンスを検討・議論する場を提供することを目的とした。6時間のセッションは基調講演4件に加え、一般口頭講演15件で構成された。2日間で100名を超える研究者が参加する、極めて盛況な会となった。

基調講演では、まずPFSプロジェクトのPI（研究責任者）である村山斉氏からPFSプロジェクトの概要、PM（プロジェクトマネージャー）の田村直之氏からプロジェクトの装置開発の現状、今後のタイムラインの報告があった。また、すばるコミュニティーを代表して、太田耕司氏からPFSに期待する銀河サイエンスの進展、またハワイ観測所長の吉田道利氏から観測所の立場からPFSに期待することについて、それぞれご講演いただいた。一般講演では、期待されるPFSの性能、多数のターゲット天体に対するPFS観測モード、開発されているプロットタイプのデータベースの紹介に続き、PFS宇宙論で探る宇宙の加速膨張の起源およびニュートリノ質量階層構造・質量の決定、PFS銀河サーベイで可能になる銀河の性質・進化の研究、PFS銀河考古学サーベイで可能になる天の銀河・アンドロメダ銀河の形成過程の研究および矮小銀河におけるダークマター分布の復元、など非常に幅広い研究分野についてPFSで可能になるサイエンスが議論された。異なる分野の研究者間で活発な議論が交わされ、PFSサーベイの実現に向け、さらに議論・検討を進める機運を高めることができた。

【マゼラン雲で探る星・星間物質の進化】

世話人：大西利和，金田英宏，羽部朝男，西合一矢，西村優里

大小マゼラン雲はその近さから銀河全域を詳細に観測することが可能であり、銀河における星・星間物質の進化を詳細にトレースすることができる非常に貴重な天体である。また、銀河系を含めシステム全体として多大な相互作用を経験しており、銀河衝突を含むさまざまな規模の衝突現象が星間物質・星形成に及ぼす影響の理解にも重要である。本セッションでは、これらの課題に関わる最新の研究成果を集め、観測と理論の両面からの多面的な研究を促進・議論する場を提供した。4時間のセッションは基調講演4件に加え、一般講演10件、ポスター講演3件で構成された。

基調講演は、大西利和氏（大阪府立大学）がミリ波・サブミリ波観測による分子雲・星形成観測研究の現状を、井上剛志氏（名古屋大学）は星間媒質の動的進化に関する理論研究、下西隆氏（東北大学）は低金

属量銀河における星間化学研究、馬場彩氏（東京大学）はX線・ガンマ線での観測研究、の最新成果を含むレビューをご講演いただいた。一般講演・ポスター講演では、これらのレビューの分野を含む幅広い波長・理論研究の研究結果が網羅された。重元素量をはじめとするさまざまな環境パラメータが大きく変化することにより、それらが星・星間物質の進化にどのような影響を与えるのかに関してさまざまな観点からの講演・議論がなされ、今後の分野横断的な研究推進が期待される。

〈研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演〉

年会3日目の3月15日17:15から、2017年度研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者および講演タイトルは以下のとおりである。

研究奨励賞受賞者講演

井上芳幸（理化学研究所）

「宇宙ガンマ線背景放射をはじめとする活動銀河核高エネルギー現象の研究」

富田賢吾（大阪大学）

「星形成シミュレーションのこれまでとこれから」

松岡良樹（愛媛大学）

「遠いクエーサーをさがして」

林忠四郎賞受賞者講演

柴田大（京都大学）

「数値相対論による連星中性子星合体の研究」

〈天文教育フォーラム〉

年会初日の2018年3月14日（水）17:30より19:00までJ会場にて、天文教育普及研究会との共催で天文教育フォーラムを開催した。今回のテーマは「教養と天文学」で、参加者数は約120名であった。

今回の天文教育フォーラムでは、日本の大学や社会教育の現場における、特に天文学に焦点を絞ったの教養教育について、3人からの話題提供と、それを基にした議論を行った。

はじめに登壇された長島雅裕氏（文教大学）は「現代の教養教育に天文学はいかに貢献すべきか」という題目で話題提供された。教育基本法や学校教育法に立ち返り、人格形成のための教育、そのための教養ということを議論し直し、特に、吟味する力の養成として、教養教育での天文学の役割への期待をまとめられた。

次に、高梨直紘氏（東京大学）は「非専門家向けの天文教育をデザインする」という題目で話題提供された。社会が求めている「教養」は、時代背景とともに変わってきていることに注意すべきであり、その文脈

の中での「教養」とは何かを問い直し続けることの重要性を訴えられた。また、生涯学習として従来から想定されていた層とは違う、これまで見落としがちだった層を視野に入れる重要性も訴えられた。

最後に、鴈野重之氏（九州産業大学）は「大学における教養科目としての天文学」という題目で話題提供された。日本の大学のシラバスを調査したところ、教養科目として天文学の関連科目を設けていることはわずか17%にすぎないこと、うち、日本天文学会会員が担当者となっているものがその39%にとどまるという事実を紹介された。大学で天文学を学ぶことは想像以上に難しいという現状を、事実を通して紹介された。

その後のディスカッションでは、多方面から意見が出された。天文学がもつ、学問としての「総合性」を活用して教養教育の中で貢献ができることや、人間というものの関連性でも天文学を語るができるという柔軟性も議論された。

（富田晃彦）

〈懇親会〉

年會3日目に当たる3月16日（金）18時より、千葉大学生協フードコートで懇親会が行われた。参加者は一般120名、学生49名のほか招待者を合わせて計180名だった。冒頭に徳久剛史千葉大学長より歓迎の挨拶をいただいた。徳久学長はご自身の専門である免疫学と対比させながら、新しい技術の発展が学問の推進力となることを指摘され、重力波やニュートリノの検出により、天文学が大いに発展していくことを予言された。さらに千葉大学でもハドロン宇宙科学を戦略的重点研究強化プログラムの一つとして支援していることを紹介された。柴田一成会長よりこれに答える挨拶が続き、乾杯となった。

今回の懇親会は特記するほど特色はなかったが、講演会場から徒歩3分と近かったため、直前の特別セッションの終了予定時刻の15分後に懇親会を開始できた。懇親会までの時間を節約できたため、例年より多くの特別セッションを開くことができた。

懇親会の後半では次回の開催地・兵庫県立大学を代表して伊藤洋一開催地理事が挨拶された。この場でのご挨拶では触れられなかったが、今回は開催地の特色を活かした懇親会となるよう考えられているとのことである。

（花輪知幸）

〈保育室〉

千葉大学、けやき会館内の和室にて、保育室を開設

した。4家族4名が保育室を利用し、授乳室の使用もあった。準備にあたり、千葉大学スタッフの方々さまにさまざまなご協力をいただいたことを感謝する。

（石川遼子、町田真美）

〈進路相談コーナー〉

日本天文学会のキャリア支援委員会は天文学および関連する多様な分野において、若手研究者が活躍できる場の開拓と確保を目指している。そのための企画の一つとして、年會会場に、天文学で学位を取った後、研究所や大学などの狭い意味のアカデミアではない場所で活躍している先輩たちと直接話をしてもらうことで自分の将来のキャリアに関する視野を広げてもらう「進路相談コーナー」を設けている。

今回は tennet であらかじめアドバイザーの名前と在学中の研究や就職後の仕事の内容を紹介した。また場所の選定、当日の案内などをより良いものにするなど、相談に来やすい環境作りに工夫をした。今回の会場は発表会場の動線途中にあったためか、多くの年會参加者が立ち寄った。コーナーは3月15日、16日の2日間、11時30分から2時間設置した。アドバイザーは天文出身の修士と博士修了の7名、相談者は約10名、複数のコーナーでの相談もあったので15件ほどであった。意見やアンケートをお願いしたところ、今回はアドバイザーや相談者からも好評で、次回の開催に当たって多くの助言をいただいた。アドバイザー候補者を探すことが今後の重要な課題だが、キャリア支援委員会では今後も年會会場に「進路相談コーナー」を設置していく予定である。

（市川隆）

〈ジュニアセッション〉

第20回ジュニアセッションが天文学会最終日3月17日（土）にJ会場で開催された。総数74件の発表のうち、4分間の口頭発表とポスターの組み合わせが44件、1分間のショートプレゼンテーションとポスターの組み合わせが16件、ポスターのみの発表が14件であった。また、タイの高校生による発表が6件あった。プログラムおよび予稿集は、ジュニアセッションホームページ（<http://www.asj.or.jp/jsession/2018haru/20th.html>）から公開されている。

当日は快晴ながら花冷えのなか、9:00の開場予定時刻前から多くの参加者が受付前に集合した。9:30のセッション開始時には480席の会場はほぼ満席となり、その後も午後のセッション終了まで多くの聴衆が熱心に発表を聞いていた。受付の記録では引率を含む発表者が約320名、一般の聴講者が約70名であった。

これに加え40-50名の天文学会会員がポスターセッションを含め参加した。

柴田一成天文学会会長の挨拶のあと、さっそく口頭発表セッションが始まった。座長は、午前は阿部新助氏（日本大学理工学部）と松本直記氏（慶應義塾高等学校）に、午後は野澤恵氏（茨城大学理学部）と鈴木文二氏（元 埼玉県立春日部女子高等学校）に、それぞれ務めていただいた。質疑応答では、研究者からの質問、コメントだけではなく、参加者の生徒同士の議論も行われ活発であった。午前・午後の口頭セッションの後に行われたポスターセッションでは、終了時間ぎりぎりまでそれぞれのポスターの前で活発な議論が繰り広げられた。

今回、ジュニアセッション実行委員長が交代して初めての開催であった。まずは無事に終了したがいろいろ改善点も見えてきており、20周年を迎える来年はさらに充実したジュニアセッションとなるよう努力したい。

本ジュニアセッションは、日本天文学会が主催し、天文教育普及研究会、高校生天体観測ネットワーク、および千葉大学の共催、日本学術会議の後援で行われた。運営においては開催地理事花輪知幸氏をはじめとする千葉大学の皆様、寺田幸功年会実行委員長や学会関係者ほか関係各位に篤く御礼申し上げる。

(山村一誠)

〈公開講演会〉

年会の翌日、3月18日（日）13時より、千葉市科学館プラネタリウムで「極限環境での最先端天文学」というタイトルで公開講演会を開いた。入場者は211名で会場は満席となり補助席も設けられた。大山真満天文教育理事の司会、柴田一成会長の挨拶により講演会は開始された。会の前半では国立天文台チリ観測所長の阪本成一氏が「アンデスの巨大望遠鏡アルマで挑む暗黒の宇宙」という題目で、後半では千葉大学ハドロン宇宙国際研究センター長の吉田滋氏が「南極点からニュートリノで探る極限高エネルギー宇宙」という題目で講演した。どちらの講演でもプラネタリウムの機能により、チリに設置されたALMA望遠鏡と南極点に設置されたIceCube施設のサイトの全方位映像と夜空がドームに投影された。最先端の成果を観測の現場で聞く雰囲気を楽しんでいただけたのではないかと思う。

聴衆の多くは地元千葉の方であったが、遠方から来場される方も多かった。7千枚のチラシ配布、Twitter（柴田会長、千葉大学公式）、サイエンスイベントを集めたサイトへの投稿、など公開講演会の宣伝には力を

入れたつもりである。また3月15日の読売新聞千葉版朝刊でも、2枚の写真付きの紹介記事が掲載された。ただしどれが有効であったかは不明で、講師がよかった、天候が良かったなどの要因のほうが大きかったかもしれない。

この講演会では共催の千葉市科学館に、企画、広報、運営のすべての面で大きくお世話になりました。この場を借りて改めて感謝の意を表します。

(花輪知幸)

(年会実行委員長：寺田幸功)

会員名簿掲載情報受付のお知らせ

今年も隔年で発行している会員名簿の更新時期になりました。

今回発行する名簿も前回同様、以下の方針で発行することになりましたので、皆様のご協力をよろしくお願いたします。

●原則全員掲載項目

1. 会員種別・番号（必須）
2. 氏名（必須）
3. 所属（or業種）
4. 所属先の電話番号（★注）
5. e-mailアドレス

●希望者のみ掲載項目

6. 自宅住所
7. 自宅電話番号

※次の方のみご連絡ください。

- ・登録情報に変更がある方
- ・原則全員掲載項目の3. を一般的職種名に書き換えた方
- ・原則全員掲載項目の4. 5. で非掲載希望項目がある方
- ・希望者のみ掲載項目の6. 7. を掲載したい方

《締切：6月30日（必着）》

※前回の名簿発行の際に掲載項目について連絡されていても、新しい名簿データ作成の前にリセットされますので、上記にあてはまる方は改めてご連絡ください。

※ご連絡いただかない限り、「原則全員掲載項目」（1～5）のみが掲載されます。

掲載内容は、会員登録データに登録されているもの（入会届や変更届に記載のもの）になります。

（★注）所属先の電話番号に個人の携帯番号と思われる

るものを登録される方がいらっしゃいます。ご連絡がない限りその番号が掲載されますのでご注意ください。

連絡方法

日本天文学会ホームページのトップページ「会員へのお知らせ」リンク先の回答用テンプレート「会員名簿カードテンプレート」を使用し、kaiin@asj.or.jpまでe-mail送信してください。

e-mailがない方のみ、巻頭の綴じ込みハガキをご利用ください。

訃 報

会員の関口直甫氏は2017年9月20日にご逝去されました。満93歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会員の芹生正史氏は2018年1月25日にご逝去されました。満53歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会員の佐藤健氏は2018年3月4日にご逝去されました。満79歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

天文月報記事投稿用アップローダー

<http://www.asj.or.jp/geppou-office/toukou/index.php>

■ログイン法

login: geppou passwd: toukou

■アップロードの仕方

アップロード画面にいったま必ず必要事項を埋めてください。

するとアップロードに進むことができます。ファイルが複数ある場合は「投稿フォームを増やす」ボタンを押してください。押すたびに欄が増えます。

1回あたり全部で最大50 Mbyteまで送信できます。(それ以上の巨大なファイルのアップロードは推奨されませんが、やむをえない場合は分割してお送りください。)

■注意

投稿者の個人の認証はcookieを利用しています。

したがってcookieを受け取らないブラウザでは使えません。

またformのcheckや可変個数のアップロードボックスはjavascriptを利用していますのでjavascriptが使えなければこのuploaderは使えません。

その場合は従来どおり、toukou@geppou.asj.or.jpまでメールでご投稿ください。

■連絡先

アップローダーに関するテクニカルなご質問は youtsumi@hiroshima-u.ac.jpまで、

またその他のご質問はtoukou@geppou.asj.or.jpまでお願いします。

(天文月報編集長)

天文月報記事ご執筆用テンプレート (SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀)

ご執筆者のために日本天文学会HPに「投稿用Tex/MS Wordテンプレート」をご用意いたしました。

<http://www.asj.or.jp/geppou/yoko/template.html>

texで執筆される方はtex/あるいは文字コードに応じてu_Tex2/, MSWordで執筆される方はword/をご利用下さい。詳しくは各readmeをお読み下さい。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol111** (6文字) の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

小宮山裕 (委員長), 上野悟, 岡部信広, 奥村真一郎, 押野翔一, 滝脇知也, 富田賢吾, 中村航, 萩原喜昭, 松田有一, 諸隈智貴, 山田真也

平成30年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社

定価720円 (本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2018年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)